

令和5年4月25日

京都経済情勢報告

(令和5年4月判断)

1. 総論

【総括判断】「京都府内の経済情勢は、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→

(注) 令和5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動及び雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年1月判断）	今回（5年4月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
生産活動	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
設備投資	4年度は前年度を上回る見込みとなっている	4年度は前年度を上回る見込みとなっている	→
企業収益	4年度は増益見込みとなっている	4年度は減益見込みとなっている	↘

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外経済の下振れが景気の下押しリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売は、前年を上回っている。百貨店は、堅調な高額品に加えて、人流の増加により菓子類等が好調となっていることから、前年を上回っている。スーパーでは、飲食料品等の値上げによる買い控えがみられるものの、商品単価の上昇による影響や客足の増加から、前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売は、飲食料品等の値上げにより買い物点数が減少しているものの、繁華街や観光地の店舗において客足が増加していることなどから、前年並みとなっている。

乗用車の新車登録届出台数は、供給面の制約に伴う影響が徐々に緩和されつつあることから、前年を上回っている。

家電販売は、新生活需要がみられるものの、全体としては、節約意識の高まりから買い替えサイクルが長期化する傾向がみられ、前年並みとなっている。

ドラッグストア販売は、マスクの着用ルールの緩和や外出機会の増加等により、化粧品等が好調であることに加えて、花粉症関連の医薬品の需要が伸びていることから、前年を上回っている。

ホームセンター販売は、値上げの影響により客単価は上昇しているものの、客足が減少しており、DIY用品やインテリア用品が低調となっていることから、前年並みとなっている。

観光動向 「回復傾向が続いている」

観光動向は、客室稼働率をみると、全国旅行支援の延長や外国人観光客の増加により前年を上回っていることから、回復傾向が続いている。

- 昨年秋に入国制限が緩和されて以降、免税売上が戻ってきており、回復傾向が続いている。品目別にみると、高級ブランド品や腕時計などの高額品や、人流の増加に伴い菓子類などが堅調に推移している。中国からの渡航者に対する入国制限が緩和されたことから、今後はインバウンド需要の本格回復も期待できる。(百貨店)
- 値上げによる単価の上昇と、客数の増加から、売上も伸びている。ただ、食料品等の値上げによる節約志向の高まりから、必要以上に購入しない傾向になっており、買い物点数自体は減少している。(スーパー・中堅企業)
- 全国旅行支援による効果やインバウンド需要の増加から、客足は好調になっており、繁華街の店舗を中心に回復傾向が継続している。しかし、買い上げ点数が落ちていることから、物価高による節約志向で、余計なものを買わない傾向になっていると思われる。(コンビニエンスストア・大企業)
- 半導体不足の影響はいまだに残るものの、徐々に緩和されつつあり、1月以降は納車台数が少しずつ伸びてきている。(自動車販売・中堅企業)
- 新機種が出たり、古くなってきたと感じたりした時点で家電製品を買い替える人が多かったが、今では多少動きが悪くてもぎりぎりまで買い替えないという傾向が強くなってきている。(家電量販店・大企業)
- マスクや検査キットといったコロナ関連商品の売上が低調になった一方、マスク着用ルールの緩和や外出機会の増加により、化粧品は回復傾向が続いており、足下ではかなり商品が動くようになってきた。また、花粉の飛散量が例年より多いことから、花粉症関連の医薬品の需要が高まっている。(ドラッグストア・中小企業)
- ドラッグストアや総合スーパーに人が流れているようで、来店客数自体が減少している。特に、巣ごもり需要で堅調であったDIY用品やインテリア用品の落ち込みが目立っている。(ホームセンター・大企業)
- 予約状況でみると約半数が外国人宿泊客になっており、これまで低下していた平日の稼働率も増加していることから、本格的に回復してきたと感じている。5月以降も、修学旅行の予約が切れ目なく入っており、更にインバウンドの引き合いもあることから、好調が続く見通しとなっている。(宿泊・中堅企業)

■ 生産活動 「緩やかに持ち直している」

鉱工業生産指数は、部材調達難による影響が緩和されつつあることから上昇しており、生産活動は緩やかに持ち直している。一方、企業ヒアリングでは、半導体関連の設備投資需要の一服感や、海外経済の減速感から、新規受注が減少しているとの声も聞かれている。

- これまで旺盛だった半導体関連の設備投資需要が落ち着いてきており、新規受注が鈍化している。ただ、これまでが異常な受注状況であったため、むしろ通常期に戻ってきているという印象である。(電気機械・大企業)
- 部品供給は緩やかに回復しており、製造ができない状態からは脱したため、売上が立つようになってきている。足下において、半導体関連の設備投資は一服感があるが、長期的には再び需要が伸びると予想している。(業務用機械・大企業)
- 先端半導体の輸出規制強化については、そもそも中国への輸出に占める先端半導体分野の割合は小さいことから、影響は限定的なものになるのではないかと考えている。(生産用機械・大企業)
- 半導体不足は解消しつつあるものの、海外においては、前年の反動や景気の減速感から、需要の減少がみられており、先行きには注意が必要である。(輸送機械・大企業)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は、有効求人数が増加しているものの、有効求職者数も増加しているため、横ばいで推移しているが、観光需要の高まりにより、宿泊・飲食サービス業、運輸業を中心に新規求人数が伸びていることから、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

- 転職を重ねる人が増えており、ここ数年入退社の出入りが激しくなっている。事業環境も良くなっていることから、人手不足気味となっているため、キャリア採用を増やしていく方針である。(業務用機械・大企業)
- 業績ははまだ回復途上ではあるが、大手企業が軒並み初任給を引き上げていることから、若年層を対象に賃金の引き上げを行い、人材確保に努めている。(繊維・中堅企業)
- ホテル業界の不安定さや忙しさのイメージのほか、給与面での競争もあり、応募がほとんどない。人手不足により、宿泊部門においてはフル稼働ができない。レストラン部門においては営業時間を短縮せざるを得ないなどの影響が出ている。(宿泊・中堅企業)
- 観光関連産業や運輸業、小売業等において、人手不足が顕著になっており、先行きも明るいことから、新規求人については今後も増加する可能性が高い。一方、求職者については、足下増加傾向にあるが、より良い条件を探して転職活動をしたり、新型コロナウイルス感染症の落ち着きにより働きに出たりする動きがみられており、雇用環境が悪くなっているわけではない。(官公庁)

■ 設備投資 「4年度は前年度を上回る見込みとなっている」(全産業)「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

製造業では、木材・木製品などが前年度を下回っているものの、はん用機械、生産用機械などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

非製造業では、医療・教育などが前年度を上回っているものの、金融・保険、学術研究・専門・技術サービスなどが前年度を下回っていることから、全体では前年度を下回る見込みとなっている。

■ 企業収益 「4年度は減益見込みとなっている」(全産業)「法人企業景気予測調査」5年1-3月期

製造業では、業務用機械などが増益となるものの、情報通信機械、生産用機械などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。

非製造業では、医療・教育などが減益となるものの、不動産、小売などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

【その他の項目】

- 住宅建設 **新設住宅着工戸数**(後方3か月平均)でみると、前年を上回っている。
- 公共事業 **前払金保証請負金額累計**でみると、前年を上回っている。
- 企業倒産 **倒産件数**は、前年を上回っている。
- 企業の景況感 **法人企業景気予測調査(5年1~3月期調査)**の景況判断BSIでみると、現状判断は全産業で「下降」超となっており、規模別では、大企業、中堅企業、中小企業いずれも「下降」超となっている。先行きについて全産業でみると、「上昇」超に転じる見通しとなっている。

連絡・問合せ先 京都財務事務所財務課 TEL075-752-1418